

まなびあい

丑年を迎えて



保護者並びに地域の皆さま、明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、本年が素晴らしい一年となりますよう心よりお祈り申し上げますとともに、本校教職員一丸となって、本年も子供たちのために一層尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスに世界中が大きく動かされた1年でした。その猛威は依然として収まることなく、新年がスタートしました。東京、埼玉をはじめとする1都3県につきましては緊急事態宣言までもが発令されようとしています。引き続き、新しい生活様式の中、新型コロナウイルス感染防止に向けて気を付けていかなければなりません。

さて、令和3年は丑年。丑年についていろいろ調べてみますと、十二支が生まれたのは中国、もともと日付や時刻、方角を表すために使われてきたもので、干支の漢字は特に意味を持たない記号のようなものだったとのこと。それでは、一般の民衆には覚えにくいということで、ある人物が子丑寅・・・を鼠牛虎・・・のように十二支に身近な動物を割り当てたそうです。

それでは、牛についてですが、牛は昔から食料としてだけでなく、農作業や物を運ぶときの労働力として、人間の生活に欠かせない動物で、勤勉によく働く姿が「粘り強さ」や「誠実さ」を象徴し、身近にいる縁起の良い動物として十二支に加えられたとのこと。また、「丑」という漢字は「紐」という漢字に通じ、厳しい寒冷の土の中で草木の根が紐のように結び合い、春を待ちつつ耐え忍んでいる様子を表すとされているとのこと。

さらに、十二支の動物の中でも最も動きが緩慢で歩みの遅い、丑（牛）の年は、先を急がず一步一步着実に物事を進めることが大切な年と言われている

そうです。すなわち、結果を求めるのではなく、結果につながる道をコツコツと作っていく基礎を積み上げていく時期なのだそうです。

調べてみて、コロナ禍において丑年を迎えたことの意味は大きいと感じました。新型コロナウイルスの出現さえなければ、これまで通りの生活ができていたのに・・・と、嘆いても元の生活には戻りません。これから未来を拓いていく子供たちのことを考えますと、新しい生活様式における新しい学校生活をどのようにしたらよいのか、そのために、何をどう努力したらよいのか、牛のように粘り強く、誠実に、そしてコツコツと基礎を積み上げていくことが重要なのだと思います。学校も、これまでと全く同じ生活には戻らないと思っています。むしろ、これまでの教育活動を見直し、これからの子供たちにとってよりよい方向に進めていく、丑年である令和3年をそのような年にしていこうと思います。まずは、この3学期、感染防止に十分気を付けながら、学年のまとめ、そして次の学年の準備をしっかりしていこうと思います。保護者並びに地域の皆さまにおかれましては、昨年同様、ご理解ご支援をいただきたくお願い申し上げます。（校長 河野公子）

■引き続き、気を引き締めて

新型コロナウイルス感染拡大が非常に厳しい状況になってきました。学校でも改めて、マスクの着用、手洗い・うがい、3密回避の徹底について指導してまいります。ご家庭におかれましては、早寝・早起き・朝ごはん等規則正しい生活をお送りくださいますよう引き続き感染防止対策をお願いいたします。

なお、3学期に予定している行事等につきましても、十分に感染防止対策を行ったうえでできることを実施していこうと思っております。しかし、今後の状況により、さらなる変更やご家庭へのお願いが生じた場合には、できるだけ早めにご連絡いたしますので、何卒ご理解ご協力の程お願い申し上げます。

